



連携室通信

発行：帯広中央病院 地域連携室

6月より循環器内科の診療を開始します



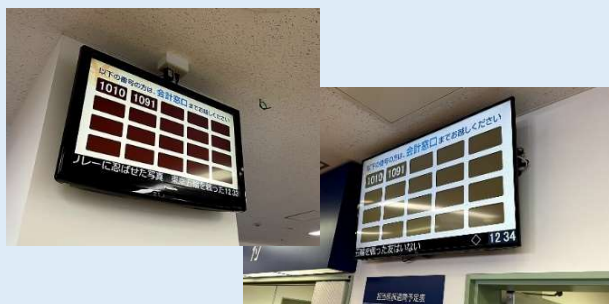
菊地洋一先生

昭和56年3月 札幌医科大学医学部 卒業

国立病院機構帯広病院の院長として心臓血管外科でご尽力されておりました。当院では循環器内科として診察にあたります。水曜日午後に循環器内科で診療を担当し、今後診療日を拡大していく予定です。

患者様の感染対策と待ち時間の短縮対策として 導入している機器(今後導入予定)についてご紹介いたします

診察案内表示盤



患者様の診察番号を自動で表示し、各診療科の進行状況を案内いたします。

患者様の呼び出し間違い防止とプライバシー保護の効果も併せて期待でき、大きな声で呼び出す必要がなくなり感染対策としても有効です。

※現在は会計のみ稼働中

自動精算機



金銭のやり取りを精算機で行うことで患者様と事務職員が直接触れることなく会計が出来るようになりより患者様への感染予防へ繋がります。

導入当初は現金のみの対応となりますが、準備が整い次第各種クレジットカードにも対応いたします。
(7月頃予定)



病院前に

エムムラサキツツジ

が綺麗に咲きました



北海道や北東アジアの山地の岩場に分布する高さは1mほどの木で4～5月に開花し、開花後に葉が繁るのが特徴です。春一番に咲く樹木の花で、鮮やかな紅紫色の花は病院の庭を賑やかにしてくれています。

リハビリセンター 作業療法のご紹介



リハビリテーション科（作業療法）では、さまざまな方々に対するリハビリ（作業療法）を行っており、今回は呼吸器疾患の作業療法について、ご紹介をさせていただきます。

●今から1年前に肺疾患を患い、長期療養生活へと大きな変化の中で、ご自身が若い頃より好きだったクラシックギターをまた弾きたいとの思いをお聞きする機会があり、ギターを用いたリハビリを開始。始めた当初は、ようやくギターを抱えるだけで弦を奏でる手指にも力が入らず、思っていたような演奏には至りませんでした。それでも毎日少しずつでもギター演奏を続け、昔からの相棒だったギターと一緒に過ごしている時間は、つらい病状や不安を一時でも忘れられる時間となり、日に日にギターを奏でる時間とともに笑顔が見られるようになりました。

病状も落ち着いてきた今年の3月、そして4月に「ミニリサイタル」開催し、各4曲を演奏され、共に大盛況に終えました。ご本人はもとより病棟職員、演奏を聴きに来てくださった入院患者様も涙を流されるほど、喜ばれておられました。

今回、ご本人の心の声に寄り添い、病気と闘い続けることの苦痛な時間をご自身の思い出とともに語りあいながら、次の日への希望と勇気、元気を引き出し、また演奏会を開催することでその奏でるメロディーがスタッフの心にも伝わり、職員の喜ぶ姿や同じく入院されている患者様が喜ばれている姿の光景は、ご自身のさらに今後の意欲へとつなぎ続けられる機会となったと思います。

今後も患者様一人一人の思いに寄り添い、身体機能に限ったリハビリのみならず、心身機能の回復ならびに一人一人のその人らしい生活の実現に向けて、作業療法を提供し続けられるようにスタッフ一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

作業療法士 辻 昌文

